

PA-009

認定看護師に対する意識調査

京都第一赤十字病院 看護部

○杉原 純子、谷山 絵梨子、二子石 よし子、吉澤 育恵、桐谷 眞澄、中森 真由美、今田 智美、梶谷 枝美、澤田 由紀子、山中 真知子

【目的】 当院には15分野22名の認定看護師（以下CN）が活動している。ポスターや一覧表を作成し、スタッフに活用して貰えるようアピールしてきたが、相談件数は少ないのが現状である。院内看護師のCNに対する認識を明らかにし、今後の活動内容の方向性を見出す事を目的に調査した。

【方法】 当院の看護師のうち、本調査に協力が得られた652名にアンケート調査を実施した。

【結果・考察】 回収率は84%であった。どのようにすればCNに相談しやすいかという質問については、「ラウンドしてほしい」「わかりやすい一覧表を各病棟に置いてほしい」「PHSをもってほしい」などの意見が多かった。CNに期待することで最も多いのは「一緒にケアをして欲しい」（52.2%）、「定期的に来てほしい」（47.6%）であった。自由記載から「専門分野の視点から細かく指導してもらえ、患者の一番を考えた看護ができたと思う。」などの意見があり、CNによるケアの代行ともなりえる看護実践を期待されていたわけではなく「一緒にケアをして欲しい」などの意見から、自分のケアに自信を持ちよりよい看護を実践するためのCNによる承認が求められていることが示唆された。また、「自信がないNsにモチベーションがあがるようなかわり」「看護師によって指導方法を考慮してほしい」などの意見もあったことから、実践を通じたスタッフ教育が期待されていると考えられた。

【結論】 今回の調査により、看護師からCNに対して相談しやすい環境を作ってほしいなどのフィードバックを得た。現在アピールポスターを作成し、認定看護師チームラウンドの実施を検討している。

PA-011

安全な看護を提供するための夜勤帯ショートカンファレンスの取り組み

さいたま赤十字病院 看護部

○小熊 奈津子

【はじめに】 外科・呼吸器外科の混合病棟であるA病棟では、過去半年間のインシデントの69%が夜勤帯で生じていた。多くはチューブトラブル、転倒・転落だが、注射・点滴の施行忘れが10%あった。その原因として夜勤者の情報共有やコミュニケーションが不十分であることが挙げられ、ショートカンファレンス（以下、カンファレンス）の実施を促されていたが、日によって行われていない現状があった。今回、安全な看護を提供するためにスタッフ間のコミュニケーションの充実を図る必要があると考え、カンファレンスの定着化に取り組んだ。

【方法】 A病棟看護師28名に対し本取り組みを説明し、同意のもとカンファレンスの実態調査を実施した（アンケート回収率100%）。その結果を基にカンファレンス内容を統一するためのマニュアルを作成し、実施・評価した。

【結果・考察】 カンファレンス内容は各々のスタッフに任されており、全ての患者情報を話すスタッフは26%、一部の患者情報を話すスタッフは74%と、その中でも話す内容基準が異なっていた。そのため、カンファレンスで話す内容基準を8点に絞ったことで、82%のスタッフは夜勤帯に必要な情報を得ることが出来た。また、カンファレンス実施率は75%から100%となり、スタッフのカンファレンスへの意識が高まったと言える。さらに、2ヵ月間のインシデントのうち、夜勤帯で生じたインシデントは45%となった。今回、カンファレンス内容を統一し、確実に伝達するルールを作り内容を明確化したことで、スタッフが必要最低限そして適切な情報を得ることに繋がったと考える。しかし、確実に情報が伝達されていても人間である以上、「忘れ」や「思い込み」が生じてしまう。それを防ぐためにもスタッフ間の「確認」「指摘」も必要であると考える。

PA-010

看護ケアにおける医療用粘着テープ使用基準統一の取り組み

北見赤十字病院 看護部¹⁾、医療安全推進室²⁾、物流情報管理室³⁾、専門・認定看護師会⁴⁾

○増田 さおり^{1,4)}、松澤 由香里^{2,4)}、脇本 奈緒子^{1,4)}、鹿又 亜由紀^{1,4)}、永井 慎也³⁾

【はじめに】 医療用粘着テープ（以下テープとする）は、看護ケアには欠かせない材料の一つである。平成22年当時、病棟・外来を含めた30部署で、様々なテープを使用しており、院内で15種類・28サイズのテープが採用されていた。スキンケアの観点から考えると、このような状況では、それぞれのテープの特徴や適応を意識せずに使用することが考えられるため、各部署の使用状況を把握した上で、院内基準を作成することができれば、皮膚トラブル予防、安全性の向上にもつなげられるのではないかと考えた。看護部全体で使用するテープを、院内基準策定から評価までの、4年間にわたる取り組みを報告する。

【方法】 全看護職員・各部署・チームリーダーへのアンケート調査・報告および勉強会の実施

【結果】 看護ケアごとに推奨するテープを設定し、特殊な例以外は統一した。また、使用テープを統一したことによる処置上の問題や、スキントラブルの報告はなかった。取り組み開始時15種類・28サイズのテープから、7種類・20サイズとなった。その結果、コスト削減効果もみられた。

【考察】 看護領域での取り組みとして開始したが、実際にテープを使用するのは看護職だけではないため、他部門に協力を要し院内全体に及ぶ取り組みとなったため、多くの時間と労力を費やすことになった。スキンケアと安全性の観点から取り組んだが、結果としてコスト削減にもつなげたことは、他部門との協力・連携によるものであり、認定看護師としてそのような調整や、横断的な活動ができたと評価する。今後もテープの使用状況・意見を確認しながら評価を継続し、看護ケアに結びつけていきたい。

PA-012

看護師と看護補助者間でのカンファレンスによる看護補助者への影響

庄原赤十字病院 看護部

○桑野 雅和、平岡 幸恵、田端 弓美、一二三 美咲、赤地 千春、西山 渚、大本 沙姫、武廣 悦子

【はじめに】 看護補助者がその責任の範囲で看護実践の一部を担う必要性が言われ始めている。看護師に看護補助者が加わったカンファレンスを行い、生活を整え生命力を高める為の看護の視点を共有する事は、安全安楽で正確なケア提供に繋がっている。このカンファレンスは看護補助者のチームにおける自律性の刺激に影響する事が明らかになった。

【方法】 研究対象者はA病院B病棟の看護補助者5名全員。評定尺度方式アンケートを無記名で行いグラフ化した。さらに半構成的質問法面接を行い内容分析した。

【倫理的配慮】 所属施設の倫理委員会から研究調査の承認を得た。プライバシー保護を厳重に行う事を書面で説明し署名にて承諾を得た。

【結果】 回収率100%。顕著な肯定的データ：「看護補助者の意見がケアに反映したと感じるか」80%肯定的。「チームの一員として役割意識向上があったか」100%肯定的。全員がカンファレンスから満足感を得、意義があると回答した。半構成的質問法では、1. チームの一員としての役割意識向上、2. ケア介入の積極性向上、3. カンファレンスと実践に関連した満足感、4. 自律性の刺激の4点が看護補助者への影響として抽出された。

【考察】 カンファレンスにより共通認識を持つ事ができ、自信を持ったケア提供に繋がったと考える。また、看護補助者としての視点から情報提供を意識する様になり、患者の課題を考え改善策を検討するといった自律性への刺激になったと推測される。この様な事からモチベーションは向上し、チームの一員としての認識は強化したと思われる。

【結論】 看護師と看護補助者間でカンファレンスを行う事は看護補助者のチーム内での役割意識を向上させ、満足感や自律性への刺激を与える。